



「謙信公・聖地(フィールドミュージアム)構想」策定の趣旨

公益社団法人 上越観光コンベンション協会
上越商工会議所

上杉謙信公の「義の心」は今も上越地域の住民の心の中に生きており、私心のない「戦国時代最強の武将」として上越だけでなく全国的にも人気を博している。

春日山は謙信公が生涯を過ごした場所である。謙信公が生まれ居城を構え、戦略を練り、瞑想し亡くなるまで暮らした場所であり、「謙信公の魂に会える」、まさに「聖地」と考える。

平成27年の春には、念願の「北陸新幹線」が開業し、より多くの人々が春日山を訪れることが想定され、また、関係各位で集客のプランも練っている。

これまで、平成23年度に市が策定した上越市観光振興5か年計画では春日山地区を重点集客エリアと位置づけ翌年は(公社)上越観光コンベンション協会と上越商工会議所が実施プランとして「やろっさ戦略」で官民挙げて具体的な取り組みを確認したところである。

しかしながら、関係各位の努力により前進しているものもあるが、新幹線の開業までに目途をつけなければならぬ課題は残っており、開業まで約1年と、時間のない中であるが、官民挙げて取り組むべきことを、地元の民間団体の意見を聞きながら、(公社)上越観光コンベンション協会と上越商工会議所が改めて整理し、公益財団法人日本交通公社に委託して春日山城跡を活かした観光振興方策の構想を策定したものである。

構想の概要としては

- ・1点目は春日山城跡の整備である。史跡という制約はあるが訪れる方がどなたでも安全に頂上まで行けるように木道の整備や休憩所の設置が必要である。なおかつ、新幹線新駅や高田・直江津駅、春日山駅からのバスなどの2次交通の充実を望む。
- ・2点目は観光客の受け入れと経済活性化の観点で上越市埋蔵文化財センターの充実である。観光客や旅行エージェントの目線からもう少し親しみやすい愛称を設けることや、春日山に滞在時間の少ない方でも土産物が見える売り場の設置、なおかつ、春日山の全景が一目でわかるようなジオラマを設置することで施設が生きてくる。
- ・3点目は「上越妙高駅」からの案内や誘導看板などの表示をおもてなしの観点から、さらに、充実しなければならない。

この取り組みが成果を挙げ、さらなる観光誘客が見込めるようになれば、年間3億を超える経済波及効果も見込めることとなる。

注 1日あたり日帰り客が100人(徒歩・マイカーを想定)、宿泊客が45人(観光バス1台分)現在より増加すると、1年間で約3億1200万円の経済波及効果が見込める。

北陸新幹線の開業は待ったなしであり、開業はゴールではなく新たなスタートなので、地域の産業・観光振興とおもてなしの観点から、この構想を基に、今後も官民連携して春日山城跡を活かした観光振興を充実して参りたい。